

ジェンダー潮流

ちょっと恥ずかしいけれどココロと体を守る性について考えよう

第2弾 12月16日(木) 10時~11:30 *託児あり(無料)

@県立男女共同参画センター視聴覚室

コロナ禍で浮き彫りになった「生理の貧困」。生理をはじめ性のことは生命の問題でもあります。性教育って大切なことってわかるけれど「いつからどのように教えたらいいの?」「思春期の子どもとどう向き合ったらいいの?」など悩みは尽きませんね。

I・YOU セミナー (11月2日@LOCOkitchen@長浜) では、まちの保健室

「ちむちむ」代表・思春期保健相談士の脇野千恵さんをお招きし、皆さんと一緒に考えました。



「いつからはじめる?」性と生”の話~子どもの疑問に答えるために考えよう~

「性」とは・・・「心と生きる」⇒「生」

セクシュアリティを学ぶことで

- ① 科学 自分のからだと心を科学的に理解する
- ② 人権 「性」を人権としてとらえる
- ③ 自立 自己決定ができる
- ④ 共生 多様な人との共生をめざす

「性」の話って
なんだか恥ずかしかったけれど自分の
心と体を大切に話す話なんだ!

必要だと思うがどう教えてよかわからない!

☆実は生まれた時から、「性と生」についてのメッセージを送っている

⇒だっこ、日常の世話、親の顔の表情などから

☆子どもの幼児期から思春期まで、日々の生活の中での身体や心といった性に関する場面があふれている。

⇒聞かれた時がチャンス!

☆共に学ぶ・・・語れないときは、絵本などを使って話す

子どもにどう教えたらいいか
悩んでいたけど
わかりやすい入口を
教えていただきました!



こんなときどうしますか?

例えば、

- ・ウンチ、おしっこと連呼する
- ・赤ちゃんは、どうして生まれてくるの?と聞かれた
- ・月経のことについて尋ねられた
- ・いつまでお風呂に一緒に入るの?



参加申し込み先
(氏名、連絡先、託児の有無)

(出典) まちの保健室「ちむちむ」代表・思春期保健相談士の脇野千恵さんセミナー資料抜粋

Contents

ジェンダー潮流 ちょっと恥ずかしいけれどココロと体を守る性について考えよう

最前線! しごとジェンダー 滋賀副知事 中條絵里さん

インタビュー 株式会社永楽屋 代表取締役 宮川富子さん

特定非営利活動法人 男女共同参画をすすめる会 IYOU 淡海 理事長 吉岡康子

〒523-0891 滋賀県近江八幡市鷹飼町 105-2

TEL 0748(43)1620/FAX 0748(43)1621/E-mail npo_iyou_oumi_2008_4@lily.ocn.ne.jp



1995（平7）労働省採用。厚生労働省雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課育児・介護休業推進室長、雇用環境・均等局勤労者生活課長を経て、令和2年8月から滋賀県副知事

厚生労働省時代、印象に残る仕事は

平成27、28年の育児介護休業推進室のころ、介護離職が問題となる中で介護休業制度があまり使われていない。どうしたら使いやすくなるのかと、分割して取得できるようにしたり、介護休暇や看護休暇が、半日単位、時間単位で取得できるように法改正をしました。

「パートナーしがプラン2025ー滋賀県男女共同参画計画・滋賀県女性活躍推進計画ー」について コロナ禍で課題が浮き彫りに

コロナ禍では、特に、就労の場において、宿泊飲食などサービス業への影響が非常に大きく、雇止めやシフトが減らされるなど非正規雇用の女性を直撃。「女性不況」とも言われ、ひとり親家庭などからは「生活が苦しい」と切実な声も上がっています。依然として家事育児介護など家庭内の仕事が女性に大きくのしかかる中、さらに負担が大きくなったり、配偶者からの暴力が増加・深刻化していきます。一方で、テレワークなど柔軟な働き方が広がり、家事育児の分担の見直しが進んだ家庭もあり、こうした前向きな変化を後押ししていくことも大切と考えています。

県民の皆さんの関心は非常に高い

県民政策コメントを7月16日から8月16日までの間実施したところ、団体、市町を含めて72名の皆さんから190件のご意見をいただきました。関心が非常に高いと感じます。中でも、今年6月に改正された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」に基づく取組や「生理の貧困」に関して計画に位置づけてほしいといった前向きなご意見を多くいただきました。

滋賀県男女共同参画審議会からは「性の多様性」へのご意見も

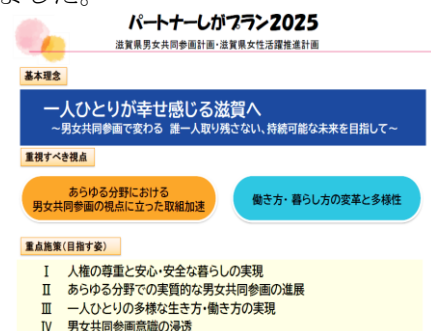
「男性の家事育児の参画や働き方改革を県や社会が後押しすることが重要」「県庁が男性職員の育休取得に率先して取り組むべき」「家事分担は子どもの意識への影響が大きい。家庭で話し合いを」「男性の自殺者が多く「男性は強くないといけない」という生きづらさにも着目すべき」などのほか、「性の多様性」に関するご意見もいただき、計画に初めて位置づけました。

一人ひとりが幸せを感じる滋賀を目指す

重視すべき視点に「あらゆる分野における男女共同参画の視点に立った取組加速」「働き方・暮らし方の変革と多様性」を位置づけ、4つの柱を重点に取組を進めます。

県民意識調査では「社会全体で男性の方が優遇されている」との回答が約7割あり、その背景には、性別による固定的役割分担意識が依然として強く残っていることなど意識の問題があります。そこで、新たに、固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消などに着目した意識の浸透を重点施策として取り上げました。

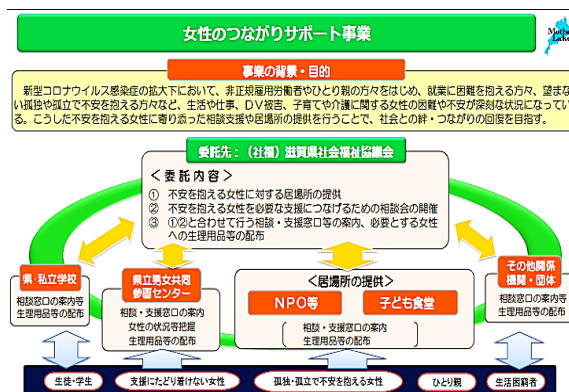
誰もが性別を意識せずに活躍できる状況までは至っていないため、新たに防災分野をはじめ、農業、スポーツなど個別分野を取り上げ、あらゆる分野で女性参画が進むよう力を入れていきます。



ジェンダー平等はSDGsの持続可能な開発目標です。政策方針決定過程への女性参画など、あらゆる分野において男女共同参画の視点に立った取組が進み、多様な視点が反映されることにより基本理念にある「一人ひとりが幸せ感じる滋賀へ」の実現を目指します。

「生理の貧困」は女性の健康や尊厳に関わる重要な課題

LINEを用いたアンケートでは「生理用品を購入・入手するのに毎回苦労した」方が4人に1人（26.1%）。10代、20代の若者の割合が高く、収入が少ない・減ったなど経済的な理由が約75%でした。県では、困窮する女性への生理用品の提供や、社会とのつながりを回復できるよう相談支援・居場所の提供などを行う「女性のつながりサポート事業」に取り組んでいます。



＜生理用品の配布場所・協力団体＞ 県立大学、県立学校、県立施設（女性活躍推進課、G-NET、各健康福祉事務所、各子ども家庭相談センター、精神保健福祉センター、県立図書館、びわ湖こどもの国、マザーズジョブステーション）、滋賀県母子福祉のぞみ会、滋賀県地域女性団体連合会、滋賀県社会福祉協議会 など

生理の貧困の問題は、女性の健康や尊厳に関わる大変重要な課題ですが、コロナをきっかけに声が上げられ、公の場でも語られるようになったと感じています。7月19日に開催された知事と女子大学生との座談会では、学生の皆さんから「生理にかかる費用や精神的負担の個人差に対して周囲の理解が不足している」「生理についてよく分からない。生理の知識が貧困」などのご意見がありました。

経済産業省の調査では、女性特有の健康問題により「勤務先で困った経験がある」が約5割、「職場で何かを諦めなくてはならないと感じた経験がある」が約4割あり、こうした状況を正しく理解し、悩みをわかり合える職場づくりが必要だと感じています。国の「働く女性の健康応援サイト」では、女性向け、企業向けに女性特有の様々な健康問題について解説していますので是非ご活用ください。

*働く女性の健康応援サイト<https://joseishugyo.mhlw.go.jp/health/index.html>

男女共同参画・女性活躍推進に向けて一段と加速を

男女共同参画・女性活躍推進に向けて一段と加速させていきたいと考えています。これから益々人口が減っていく中で経済を支えていくためには、女性も男性もあらゆる方が活躍しやすい社会をつくっていく必要があると思います。そのためには、正社員で働く、フルタイムで働く、短時間、週何日で働く、兼業・副業など多様で柔軟な働き方ができると、女性も男性も誰もが働きやすくなります。企業においてワーク・ライフ・バランスを推進していくことは、優秀な人材の確保にも繋がります。県では、働き方の見直しのお手伝いができればと専門家派遣などに取り組んでおり、多様で柔軟な働き方ができる企業が増えることを期待しています。

性別による固定的な役割分担意識の解消に向けても、一歩行動に繋がりたいと考えます。そのためには、女性団体をはじめ関係団体の皆さんとの連携も非常に重要で不可欠だと思います。皆さんそれぞれ



で実践していただくことで、社会や地域、私たち自身が変わり続けることにつながります。

誰一人取り残さない幸せを実感し続けることのできる持続可能な滋賀が実現できるよう、皆さんと一緒に目指していきたいと思ひます。

インタビュー

株式会社永樂屋 代表取締役 宮川富子 (みやがわ とみこ) さん

県内企業経営者に男性が多い中、中小企業の女性経営者や女性起業家の活躍に向けたリーダーとして幅広い分野で活躍。

2021年6月「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。

株式会社永樂屋は、滋賀県女性活躍推進企業認証企業二つ星（☆☆）を取得



経営者として心がけられたこと

この業界も男性社会そのもので私はセカンドの役目を50年やってきました。しかし夫が引退したことにより代表取締役社長に就任しました。私自身は自然体でしたが、作り手（ものづくり）と売り手（販売）の全く違う仕事の社員がバランスよく働けるということを心がけてきました。私も三人の子どもを育ててきたので、子育てしながら仕事をする人の気持ちはよく分かると思っています。

女性経営者や女性起業家に向けて

女性が働ける社会づくりの先駆者となってほしいと思っています。そのサポートや応援は私たちの立場の人間がしないといけないと思っています。子どもの食の問題、介護の問題などが浮上していますが、働きたいという本人の気持ちがあれば、周りも協力できるようになってくると思います。男性女性それぞれがお互いに良いところは出し合っとうまく協働できる社会ができればよいなと思います。

女性活躍推進企業として力を入れていることは

現在二人産休中ですが、新卒で就職し、結婚し子どもが産まれても復帰して働いています。実は、現在の支店長も、最初は子どもが保育園に行っている二時間しか働けないという話でしたが、今では即戦力として頑張っています。今回のコロナ禍では、幼稚園や学校、学童も休みとなり、出勤できない女性社員がいたことから、事務所の隣の応接室を急遽開放。子どもと一緒に出勤できる体制にしました。園児から中学生までの子どもたちが上の子が下の子の面倒を、下の子は上の子を慕うという縦のつながりが上手くできました。母親の働く姿を見る機会にもつながって良かったと思います。

また、この業界の作り手は男性のイメージですが、わが社では、女性も作り手として技術を習得し、女性の感性を生かした展示会も予定しています。



彦根城世界遺産登録意見交換・応援1,000人委員会

生まれも育ちもお城の中で育ったような私が彦根のお役に立てるならばと会長をお引き受けしました。世界遺産登録にあっては、彦根城だけでなく、周辺地域の魅力、環境、人々との暮らしの結びつきが大切です。世界遺産登録により、世界中から私たちの住み暮らす彦根が注目されます。「市民の誇りの持てる住みやすい街つくりのための登録を目指す」のが私の思いです。

次世代に向けたメッセージ

「不易流行」という言葉がありますが、日本人の良さ、生き方に対しての考え方を大切にしながら、世界で活躍してくれる人がたくさん出てほしいと思います。わが社のキャッチコピーは“繋ぐ”です。「命を繋ぐ」「思いを繋ぐ」そんな人間性を受け継いでもらい、次の新しい世界にぜひチャレンジしてもらいたいと思います。